



独立行政法人・森林総合研究所・東北支所

東北が北限! **絶滅危惧種**

ユビソヤナギ、*Salix hukaoana*

ユビソヤナギは、1972年に群馬県水上町（現みなかみ町）を流れる利根川上流域の支流・湯檜曾川の岸辺で深尾重光氏に発見され、ユビソヤナギ、*Salix hukaoana*と命名されました。日本のような科学研究の進んだ国で、高等植物の新種が見つかることは大変珍しいことです。ヤナギ科植物は雌雄異株で、雄花と雌花は別々の個体に咲きます。しかも花の時期と葉が展開する時期がずれているので、花と葉を同時に見ることが難しい植物です。また葉や花は近縁種の間でよく似ているため、分類・同定が難しい植物といわれてきました。ユビソヤナギは、一

緒に生えているオノエヤナギと似ているので発見が遅れたともいわれています（図1）。しかし、最近の研究では、オノエヤナギではなく、北海道に分布するエゾヤナギに近縁であることが判ってきました。他のヤ



図1 ユビソヤナギの葉



図2 ユビソヤナギの雄花

ナギより早く早春に開花すること、雄花の花糸が合着して一本に見えること（図2）、樹皮をむくと内樹皮が黄色を帯びていること（図3）、葉の基部に托葉が見られることなどがユビソヤナギの特徴です。一方、ここ20年ほどの間にユビソヤナギが東北各地で発見されています。例えば1983年に宮城県の鳴瀬川流域、1985年に同県江合川流域（竹原・内藤1986）、さらに1993年に岩手県の北上川水系和賀川流域（竹原 1995）、福島県の只見川流域（鈴木・菊地 2006）、秋田県の雄物川水系玉川流域、山形



図3 黄色い内樹皮

県では最上川水系立谷沢川流域および銅山川流域、赤川水系大鳥川流域、荒川水系荒川流域などです。ユビソヤナギは川の下流部ではなく、上流部の山間地や少し広い盆地に流れ出た河川のやや礫質の河原に分布しているようです（図4）。このような川の上流部はシロヤナギやオノエヤナギが優占する生育環境で、これら2種と混じって生えていることが多いようです。みなさんの住む町の近くの川にユビソヤナギはありますか？ぜひ一度、川辺のヤナギも観察してみてください。新しい北限が見つかるかもしれません。（写真撮影はすべて菊地 賢）

【参考文献】

- 指村菜穂子 & 井出雄二 (2009) 絶滅危惧種ユビソヤナギ (*Salix hukaoana*) の生育環境と分布. 林木の育種 230: 17-23.
- 指村奈穂子, 鈴木和次郎 & 井出雄二 (2008) 湯檜曾川における水辺林のモザイク構造とユビソヤナギ林の成立. 日本森林学会誌 90: 17-25
- 大橋広好, 菊地賢 & 指村奈穂子 (2007) ユビソヤナギの分布. 植物研究雑誌 82: 242-244
- 竹原明秀 (1995) 和賀川上流域のヤナギ林およびユビソヤナギの分布. 自然誌研究年報 1: 11-21.
- 竹原明秀 & 内藤俊彦 (1986) 宮城県内のユビソヤナギ. 植物研究雑誌 61: 127-128.
- 木村有香 (1974) ユビソヤナギの分類場の位置について. 植物研究雑誌 49: 46.
- 鈴木和次郎 & 菊地賢 (2006a) ユビソヤナギの生態と遺伝. 福島県只見町教育委員会, 只見町.
- 鈴木和次郎 & 菊地賢 (2006b) 只見川水系における絶滅危惧種ユビソヤナギの分布と河畔林の組成・構造. 保全生態学研究 11: 85-93.



図4 ユビソヤナギの生育地（只見川流域）

森林総合研究所東北支所

〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25
TEL 019-641-2150 FAX 019-641-6747
ホームページ <http://www.ffpri-thk.affrc.go.jp/>

- 森林総合研究所 東北支所 地域研究監
- 森林総合研究所 生態遺伝研究室

新山 馨
菊地 賢

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。